

9 横浜市立荏田西小学校

学校教育目標

◇心豊かにかかわり、互いに高め合いながら学び続ける子に育てます◇

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

現代社会における課題の解決に向けて、地域の人や友達と協力しながら、社会に主体的に働きかけようとする子どもの育成。

低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことを言葉にする力【言語能力】 ○家族や友人を愛する気持ち【グローバルの中で生きる力】 ○身近な事象に積極的に関わろうとする態度 <p>【持続可能な社会の創造に貢献する力】</p>
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの考えの違いに気づき、自分の考えを伝える力【言語能力】 ○他者の考えや思いに対する受容性や協調性【グローバルの中で生きる力】 ○自然や文化に感動し、思いや考えを表現する力 <p>【持続可能な社会の創造に貢献する力】</p>
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを深化させ、他者に的確に分かりやすく伝える力【言語能力】 ○人々と協働・協調するコラボレーションする力【グローバルの中で生きる力】 ○リーダーシップを発揮し、考えを出し合って新提案する力 <p>【持続可能な社会の創造に貢献する力】</p>

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

◎SDGsの考えを教職員で共有

⇒委員会活動や、授業づくりの中でSDGsの視点を入れていくことで、「すべての人に」というテーマを子どもに伝えることができた。

◎チーム学年経営、一部教科担任制の導入

⇒教材研究の時間を確保し、分かりやすい授業づくりの実践。また、複数の目で指導することで様々な児童の実態に柔軟に合わせていくことができた。

◎『特別の教科 道徳』の重点研究

⇒「自分を認める心、相手を認める心の育成」をテーマに自分も他者も大切にしようとする態度の育成を図った。

◎総合的な学習の時間とESD

第6学年では、総合的な学習の時間で、難民に関する学習を行った。難民の学習を通して、世界に目を向け、自分たちにできることを考え、解決策を提案する力の育成を目指した。まずは、ユニクロの方に出前授業を依頼し、難民について理解を深めた。出前授業をきっかけに、難民について

情報を収集し、疑問に思ったことを解決するために国連のUNHCRの方にも授業を依頼し、学習を深めていった。学習を通して、自分たちにも難民の為にできる支援を考え、実践することができた。例えば、難民に送る服を回収することを宣伝するために、自分たちで全校配付する手紙やポスターを作成したり、テレビ朝会や各クラスにも呼びかけたりすることができた。服がたくさん回収できたことで、子どもたちは、自分たちでも社会の課題解決に関わることができると感じることができた。



＜各クラスに宣伝する様子＞



＜UNHCRの方による出前授業の様子＞



＜回収した服＞

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法 ＜自己評価アンケート＞

本校で目指す資質・能力に沿って、児童自らが評価できるアンケートを作成した。今年度は、中・高学年を対象とし、前期（今年度7月）・後期（12月）の2回行うことで変容を視覚化した。

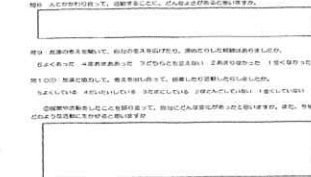
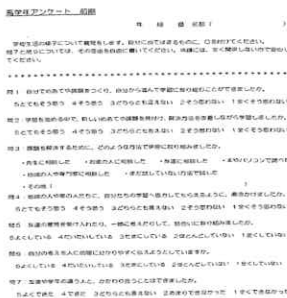


図1 高学年アンケート

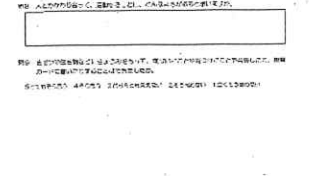
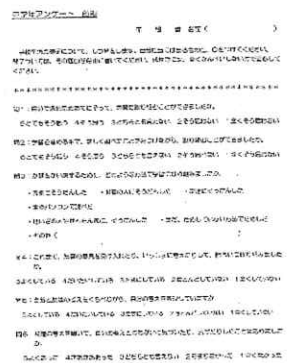
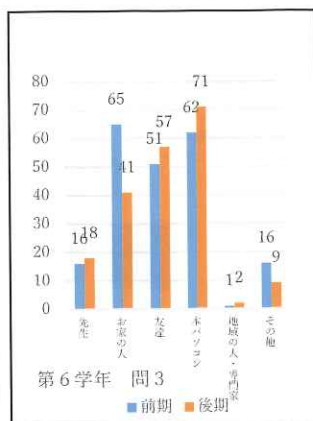
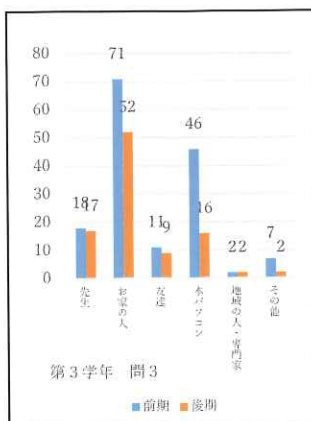


図2 中学年アンケート

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

本年度、前期と後期にアンケートを実施し、最も大きかった変容や課題点について焦点を当てて記述する。アンケートの問3は「課題を解決するために、どのような方法で学習に取り組みましたか」という質問である。第3学年では、「お家の人・先生」が多く、ESDが目指している「自己解決の力」が乏しいことが分かった。しかし、学年が上がるにつれ本やパソコンという意見が多くなった。第6学年では、コロナ禍でも、「友達に相談した」と答えた人が多かった。様々な人の意見を取り入れ、自分の課題を解決していきたいという意欲をもった児童の姿がアンケート分析から分かった。



また、問8は「人とかがわり合って、活動することに、どんなよさがあると思いますか。」という自由記述質問だった。第3学年では、前期では、「友達になれ、面白くなる。」などの言葉が多かった。しかし、後期では、言葉が具体的になり、「仲が深まる・協力できる・気持ちを共有できる」などの言葉に変わり、人との関わりが自分や友達を成長させることを理解した結果になった。そのほかに、「充実感」や「地域の人」という言葉も出てきて、地域に関わることへの意識も高まってきたと考える。

◎コロナウイルス感染症の拡大によって学校で考えたこと・新しい価値

⇒今年度予定していた委員会やクラブ活動を全て継続するのは難しい状況になった。継続できる活動とできない活動に分け、新規の活動を考えた。委員会では、集会委員会となかよし委員会の活動ができないため、新たにボランティア委員会と校内交流委員会を新設した。交流が難しい委員会は掲示を活用して密にならないような活動を行っている。継続して行っている委員会でも交流を行う委員会は、できる活動を探して行っている。できないことが増えたが、新しい活動が増え、児童も今までの活動を工夫して行えないか考えるようになった。できないからやらないではなく、どのようにしたらできるようになるか思考を変えて活動を行っている。

<今後の展望>

様々な問題を子どもたち自身が自らの問題として主体的に取り組むことができるため、課題設定の機会を生活科や総合的な学習の時間だけでなく、各教科・学校生活の中で意識的に取り組んでいく必要を感じる。

また、問題解決につながる新たな価値観や行動が変容していくためには、地域、専門家など「人」とのつながりを重視し、生き方に学び、視野や行動を広げていく必要がある。

情報を集め発信してだけでなく、コミュニケーション能力を高め、人と出会い、様々な価値観や考え、生き方に触れることにより、多様な見方・考え方を身に付けていけるようにしていきたい。

10 横浜市立港南台第三小学校

学校教育目標

夢・夢中・共に輝く
心豊かな子

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

本校では、学校教育目標の達成に向けて、ESDを学習活動の中心にして取り組んできた。その中で、重視したい資質・能力として、3点を取り上げて実践してきた。

○コミュニケーションを行う力

- ・自分の意見をもち、言葉にして伝える

○多面的・総合的に考える力

- ・思考ツールを活用して考えを整理する

○進んで参加する態度

- ・主体的に学習に取り組む

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

○児童会活動を通したSDGsへの取組

委員会活動を中心に、SDGsの視点を取り入れることによって、子どもたちの活動の意欲を高めるようにする。

○指導計画へのSDGsの位置付け

ESDを通して身に付けたい資質・能力やつながるSDGsと各教科・領域で指導する事項を関連させながら単元構成をすることで、指導内容や学習活動をはっきりさせる。

「指導計画」

【単元名】（○時間） 「 」	
【ESDの構成概念や資質・能力】	【つながるSDGs】
教材研究の際に、この単元でどんな概念、資質・能力を育てたいかを記述する。	この単元の学習が、どんなSDGsにつながっていくかを明記する。

* 指導計画例

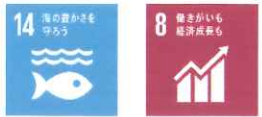
【単元名】

「持続可能な漁業を目指して」（9時間）

【ESDの構成概念や資質・能力】

- ・有限性
- ・多面的、総合的に考える力
- ・つながりを尊重する態度

【つながるSDGs】



日本の漁業の様子を調べよう

- ・漁業のさかんな地域はどこかな。
- ・どうやってたくさんの魚をとっているのかな。
- ・有限性
- ・獲った魚をどのように運んでいるのかな。

水産の取組について調べよう

- ・MSC認証ってなんだろう。
- ・巻き網漁だと一度にたくさんとれるのに、一本釣りにも取り組んでいるのはどうしてかな。
- ・多面的、総合的に考える力

これからの水産業について考えよう

- ・持続可能な水産業にしていこうためにはどうしたらいいのかな。
- ・つながりを尊重する態度

○SDGsと教科等横断的な視点を取り入れた実践

【3年生】

子どもの「物」に対する捉え方の広がりや深まりを目指した授業構想図



【4年生】

総合的な学習の時間

それぞれの開発目標について知ろう。

社会

算数

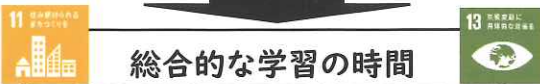


社会科:「ごみはどこへ」

- ・未来像を予測して計画を立てる力
- ・多面的・総合的に考える力

算数科:「面積のはかり方と表し方」

- ・コミュニケーションを行う力
- ・他者と協力する態度



総合的な学習の時間

自分たちの学校の課題を明らかにしよう。

- ・批判的に考える力
 - ・進んで参加する態度
- 各教科の学習において得た知識を関連付けたり、技能を活用したりして、身近に潜んでいる課題の解決に向けて協働的・探究的に学習する。

【5年生】

総合的な学習の時間

「SDGsってどのようなものだろう。」

→総合的な学習の時間と国語の指導事項を意図的につなげる。

【国語】

- 統計資料を根拠に、意見文を書く
- 報告する文章を書く
- 身の回りの問題を解決するために話し合う
- 提案するスピーチを行う

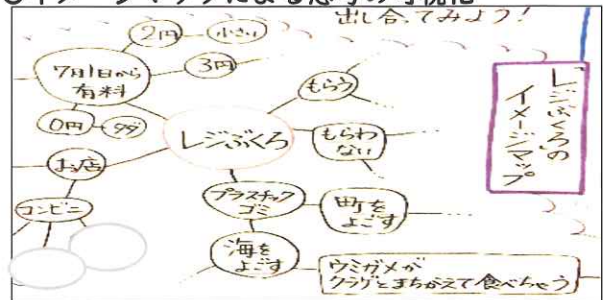
社会

→日本の産業の学習にSDGsを位置づけて学習を進める。



3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

○イメージマップによる思考の可視化



○探究の過程と活動のゴールを明確にした学習

○SDGsの現状についてインターネットや本から統計資料を探し、調べて分かったことを意見文にまとめる。(総合・国語)



○SDGsの達成状況について、身近な人や近隣のお店にアンケートやインタビュー調査をし、報告書にまとめる。(総合・国語)



○SDGsを達成するための提案をする。(総合・国語)

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

- ・SDGsの視点を子どもが獲得することで、実生活を見直し、学んだことを生活に生かそうとする態度の涵養につながった。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、国語科や社会科、算数科の学習などにおいても、ESDの構成概念や育てたい資質・能力、SDGsを柱にして単元構成することで、主体的に学習に取り組み、学びを深めることにつながった。

11 横浜市立南本宿小学校 学校教育目標

南本小の子 ～私たちがともに学ぶ、「緑豊かなこのまち」の学校の子どもたちを～
ともに明日をつくる子 ～つながりあう「自分たち」の思いと力で、明日の社会を変えていけると信じ、～
楽しみ学び続ける子 ～どんな時でも前向きに、楽しみながら学び続け、生き抜いていく人へと育みます～

1 学校教育目標とESDを通して育成したい

資質・能力とのつながり

本校では、学校教育目標を実現するために、教育課程全体で育成を目指す資質・能力として、「自分づくりに関する力」と「持続可能な社会の創造に貢献する力」を位置付けている。

また、小中ブロック9年間で育てる子ども像である「主体的に行動し、自ら学び、互いに高め合うことのできる子ども」を実現するための本校卒業時の姿として「周りの人々や環境に積極的に関わり、持続可能な社会のために自分の考えを進んで表現できる子ども」を設定した。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で取り組んだこと

<全校の取組>

◇年間指導計画の作成

本校では、ESDの視点の獲得のために、低・中・高学年ごとの目標を設定し、その達成のための具体的な資質・能力を各教科・領域の学習に紐付け、系統的に各学年の年間指導計画を作成している。

◇南本フェスティバル2020

恒例の学校行事である教育水田活動の収穫祭および振り返りの会にあたるフェスティバルを12月に行った。これは例年、何度も通う教育水田と周囲の環境について振り返り、自分たちが育てたもち米について食べることで、実体験を伴う深い学びをする機会となってきた。

しかし今年度は、実際に教育水田に通うことなく一年を終えるという状況の中、各学年で「持続可能な教育水田活動」をテーマにして話し合った。低学年では、教育水田とその周囲の生き物との関係を知り、里山に棲む生き物にと

って田んぼが重要な役割を果たしていることを理解した。また、中学年では、SDGsの17項目について学び、教育水田活動とどのようにつながっているかを考え、その価値を改めて理解した。高学年では、休耕という事態を経たからこそ、自分事として、教育水田活動における課題や、来年度以降も続けられる現実的な方法について話し合った。

<学年や委員会での取組>

◇ニュースを題材とした教科学習（4,5,6年）

本校では、ESDの力を育てるための手立ての一つとして、「日常とのブリッジング」を取り入れ、様々な教科で実践している。算数を例に挙げれば、4年ではフードロスとローリングストックを題材とした概数の学習、5年では食品配送システムの新型コロナ対応を題材とした割合の学習、6年では海洋プラスチック問題とレジ袋有料化を題材とした、資料の読み取りの学習など、ニュースで扱われている社会問題を教科の学習を使って考える時間を設定した。

◇SDGs委員会の活動の充実

昨年度発足したSDGs委員会では、母体となった水田美化委員会の活動を引き継ぎ、校内の環境整備を中心としていたが、今年度は、SDGsの17の目標の各項目を朝会で紹介したり、校内での取組がどの目標につながっているかを考え、それを全校児童に伝えたりと、子どもが主体となってSDGsの推進を実践した。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

◇ワークシートの活用

フェスティバルの学習会では、各学年に応じたワークシートを作成して学習に用いた。中学

年では、昨年度までは伝統行事として取り組んできた水田活動に、生物と水田とのつながりに対する言及する姿や、実際に体験しながら学べることを質の高い教育として捉えるなど、今まで取り組んできた活動をSDGsの観点でとらえ直そうという変容が見られた。高学年では、従来の伝統的な手作業の価値を考えるとともに、持続可能性を考えると、指導者の高齢化や、人を集められない状況に対応するには、機械化する部分も必要なのではないかという意見も出て、両極端な意見ではなく、どちらの考えも大切にしながら、水田活動をよりよいものにしていこうという思いが見取れた。

【学習問題の設定】

教科の学習問題として、SDGsを取り入れることで、教科における評価とESDの視点からの評価をつなげることができた。算数では、割合や概数などの教科のねらいを達成した上で、その概念を使って社会の諸問題についての意見をもてるかという点からも、子どもたちにESDの力が育成できているかを確認できた。

【家庭で考える機会の提供】

今年度より、学校評価アンケートに「持続可能な社会の創造に貢献する力の育成が図れていると思うか」という項目を入れた。数値化することで、保護者や児童のSDGsへの関心を視覚化することができた。

	肯定的回答	否定的回答
保護者	86.2%	12.6%
児童	89.4%	10.6%

【行動の比較】

子どもたちの学校での行動や家庭学習などから、環境に対して言及する姿や、自分たちの行動と環境への影響を考える姿が見られた。SDGsを学習で多面的に扱ったことによって、子どもたちの意識の変容が確認できる。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

【学習と日常のブリッジング】

身近なニュースを教材として扱うことで、自分たちが学んでいることが、社会問題につながると感じることができ、主体的に学ぼうとする姿勢の育成につながっている。

本校で実施しているアンケートの分析からも、日常における社会や科学の事象への関心が高まっていることが分かった。また、「親子で学ぶわくわく教室」等の機会を通して、学校で学んだことを家庭で話題にあげ、身近にできることに家族で挑戦しているという話も聞かれた。

【ICT機器の活用】

今年度は、本校がESDの柱として考えていた教育水田活動が、従来の形でできなかったため、新たな形での取組を実施する必要性があった。そこで、今まで有効活用できていなかった校内のミニ水田を使って、例年の作業と今年の作業を比較しながら、稲の生長を紹介できる動画を作成した。

タブレットを使って記録を取り、分かりやすく伝えるための動画の工夫を考えるなど、ICT機器を活用し、できることを子どもの意見を引き出しながら考えることで、校内の水田に新たな価値を見出すことができた。

また、Google classroom に学習した内容を投稿することで、家庭で自分の学習の内容を振り返ることもでき、自己調整学習への土台作りを意識したほか、教師にとっては、学びの積み重ねや考えの変容を見取り、評価に生かすこともできている。

12 横浜市立みなとみらい本町小学校

学校教育目標

「みな」と「みらい」を創る子

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

学区は西区・中区にまたがっており、西区みなとみらい地区の高層マンション群と中区北仲通地区の高層マンションの居住者が通学してくる。10年暫定の学校であるが、みなとみらい地区の特徴である経済・賑わいの中心地としての多様な企業や施設との連携により、「持続可能な社会の担い手を育む小学校」を目指している。

学校教育目標の策定にあたり、ESDの構成概念やESDの視点に立った学習指導で重視する資質・能力の考え方を取り入れている。そして、児童の実態も加味し、本校が目指す5つの資質・能力（「問いを見いだして学び続ける」「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」）にまとめ、これらを総括するものとして「みな（皆）とみらい（未来）を創る子」掲げている。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の 視点で取り組んだこと

持続可能な社会の担い手を育てるための「カリキュラム・マネジメント」に取り組む。そのために、ロジックモデルを用いたプログラム評価に今年度も引き続き取り組んでいく。（詳細については、2019年度横浜市ESD推進コンソーシアム実践報告書を参照）

昨年度は、包括的と言われるESD/SDGsをロジックモデルにおいて本校で取り組むESDの可視化をし、ESD/SDGsを教育活動全般に紐づけるとともに、より具体的な活動（資質・能力）を明らかにした指標を作成した。そして、本校の特色でもある豊かな外部リソースを活用した教育活動を進め、教科横断的な学習（教科ベースから能力ベースへ）で推進する課題解決型の学習を進めた。

今年度は、ロジックモデルで可視化した本校が目指す資質能力の育成のために、教科横断的な学習をさらに進めたい。技術員・養護教諭と連携したり特活や行事と関連づけたりして、学校全体で取り組むホールスクール・アプローチを目指す。

また、新型コロナウイルスの休校があっても、学びが止まらないよう、ICTを活用した学びを推進してきた。できないことを考えるのではなく、できることを創り上げる楽しさを追求している。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

ESDを柱に据えた学校づくりを進める上で、大きな課題のひとつが、児童・保護者・地域・外部協力者、そして教職員といった学校に関わる多様な関係者（ステークホルダー）の間でのESDについての共通理解であった。ESDは、多様な領域や課題、アプローチ（扱い方）があり、どのような資質・能力を通して、どのような目標を目指すのか、とても汎用的であるだけに分かりづらいつとも言われ続けて来ている。それらを整理し、可視化し、学びの主体である子どもをはじめ様々な関係者で共有できるものが必要だと考え、東洋大学教授米原あき先生のご指導をいただき、ロジックモデルの策定とプログラム評価の実践に取り組んできた。

（1）ロジックモデルに基づいた教育活動の推進

学級や学年の活動だけでなく、重点的な取り組みとして「ホールスクール・アプローチ」を実践する。学校全体の取組や校務分掌に即した取組みを推進していく。

（2）活動の前後でのアンケートの実施

活動を改善するのに必要な情報を収集するために、活動の前後でアンケートを実施し、その

活動の達成度合いやその変化を測る。その際、アンケート項目は、ロジックモデルの中のアウトカムや指針と紐づける。

(3) アンケート結果の分析

「どうすればもっとよいプログラムになるか」を具体的に検討するために、アンケートの分析をすすめる。テキストマイニング等を用いて、変化の可視化を行う。

(4) ロジックモデルの加筆修正

来年度の計画を検討し、ロジックモデルの加筆修正を行う。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

(1) SDGsに関連したカリキュラムデザイン

教科横断的な学習をするために、生活科や総合的な学習の時間を活用した取組を計画する。計画を立てる時にはそれぞれの学級の実態やどのような所に関心が集まっているかなどを相談し合った。担任以外の教員からのアイデアが加わることで、カリキュラムが広がり、柔軟な児童の取組への支援が考えられた。

○身近な公園の環境に着目したカリキュラム (昨年度実践)

担任は身近にある公園の利用が少ないことに着目した。この公園は磯遊びができることから、自然との関わりを感じることができる。さらに、よりよい公園にしていく活動をしている方とも連携をすることができた。SDGsの目標でもある「海の豊かさを守ろう」にも関わりが深いことから、学習で取り上げる材として考えた。

4年1組 総合的な学習の時間 の活動計画案 (8月版) MM50001

活動名	見つけて楽しむ「海の豊かさを守る」	SDGsとの関連	
学習目標	児童がマンションの目の前には海が広がっているが、海が「見るもの」になってしまっていないか。目の前の海には、多様な生き物が生息し、その環境を維持するために携わっている人や発信している人がいることを知らない。子どもたちは生き物が大好きである。海の豊かさを知り、子どもたちがその人たちに代わってできる人になってほしい。	進めるに当たり悩んでいること	
活動のイメージ	活動の様子		
現状～9月	活動の様子		
9月～12月	活動の様子		
その後の1月～3月	活動の様子		

図3 担任が構想した年度初めの計画(カリキュラム)①

「高島水際線公園ってどこ？」から始まった活動。魚やエビ・カニなどの生き物が豊かに生息していること、景色がきれいな場所であること、という公園のよさにふれ、児童は「もっと多くの人によさを知ってもらいたい」「よさを守ってもらいたい」との思いを強くもった。



図4 高島水際線公園での活動

児童のマンションの目の前には海が広がっているが、海が「見るもの」になってしまっていないか。目の前の海には、多様な生き物が生息し、その環境を維持するために携わっている人や発信している人がいることを知らない。

子どもたちは生き物が大好きである。海の豊かさを知り、子どもたちがその人たちに代わってできる人になってほしい。

※図3の丸印内

ロジックとの関連を意識していくことで、持続可能な社会の担い手に必要な資質・能力がどのような場面で涵養されているのか、具体的にになってきた。カリキュラムデザインに加えて、ESDをアンパッケージすることは、「古くて新しい教育様式へのシステムの転換」にもつながる方法だと考えられる。

13 横浜市立大門小学校

学校教育目標

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

「地域の人・もの・ことを生かした活動を通して未来に目を向けられるようにする」という中期取組目標から「人とつながりを通して豊かな人間関係力及び未来を創り上げる人間性」を育むことというESDを通して育成したい資質・能力を設定した。地域の材をESDの観点から見つめ直し、大門の地域という資源や特色を最大限生かす中で、「人とつながる 未来へつなげる 大門小」というESDのテーマを掲げ、教職員や子ども、保護者、地域が輪となって活動を行っている。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

○生活科及び総合的な学習の時間

SDGsの視点を取り入れながら生活科や総合的な学習の時間を「課題解決型の学習」となるように進めている。

事例としては、家で捨てるはずのものを集めて、遊びを工夫する2年生の取組、地域のお店を調べて、瀬谷観光パンフレット作りをして瀬谷の魅力を伝える3年生の取組、企業と連携して、使用済みの油を回収するなど、温暖化に対して自分のできることを考えた4年生の取組、海洋プラスチックの問題について関心をもち、資源循環局の方の出前講座から身近な大門川に目を向けてごみ拾いをした5年生の取組等である。

また、コロナ禍における大門フェスティバル（生活・総合的な学習の時間の中間発表会）についても相手意識や活動目的、手段等を議論し、実行委員の児童とともに、新しいフェスティバルの形を創り上げた。

○大門小版SDGs

代表委員会では、「大門小版SDGsをつくろう」という活動を全校での取組とした。大門フェスティバル実行委員の児童が「SDGsについて分から

ない」という低学年の声を受けとめ、分かりやすく身近にできることを実感できるSDGsを創ることを提案し、大門小学校版SDGsを全校で作成することが決定した。各クラスが生活科や総合的な学習の時間を通して学んだ内容と関わりの深いSDGsについて、自分たちが学校で実践できることを考えた。



3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

○振り返りカードによる子どもの変容の見取り

活動の後には振り返りを行い、振り返りカードから子どもの変容をみとり、分析した。3年「パンフレット作り」では、A児はパンフレット作りに対してはじめは意欲がなかった。しかし、実際にプロの方のお話やフェスティバルでの発表を通して「早く協力して作っていきたい」という気持ちに変わった。またB児は、活動を通して「互いの思いを認め合う力」がついたとメタ認知できている。

3年生から少しずつ、協働して問題解決しようとする力が身に付いてきている。

早くみんなと協力してパンフレットを作
くりたいです。みんなと協力する力がついたら
と思います。おと人に気持ちをつたえら
る力がついたらと思います。また、いままで気が
かながら友だちのよいところや力を知りました。
おたがいに、力をサとめあうことそできた
思います。

【B児の振り返り】

4年生の温暖化に対する取組を行ったC児を見ると、活動前、「苦手なことにねばり強く取り組んでいる」や「新しい課題や方法にもチャレンジしている」というアンケート項目に対して「あまりそう思わない」と回答としている。しかし継続して活動を行う中で、C児に変容が見られた。振り返りから、あきらめずに粘り強く取り組む力や自分事としてとらえる力、行動する姿勢が見られるなど資質・能力に対する変容がうかがい知れる。活動ごとに丁寧に振り返りを行い、変容を価値づけることが大切であると感じた。

今日の授業を通して、どんな思いや気持ちになりましたか？
 気付けカ → 考えるカ → 行動するカ → やりどげ
 るのくりかえし / 考えて 行動するのは
 自信やおもしろい気持ちがある。
 行動してやりどげた成長する。
 くりかえすと やりどげ(成長)すること
 すべし わすれなければ 大事なことで
 できるよ がんばるよ

【C児の振り返り】

○児童アンケートの実施と分析

ESDによる変容を見とるために、本校で目指す資質・能力に沿って、児童自身が振り返られるアンケートを作成した。

4～6年生アンケート 年 組 名前

あなたは、次の1から17に書いていることについて、もっともよくあてはまるものに○をぬりつけてください。

Q	1	2	3	4	5
1. 自分で決めて課題をつくり、自分から学習ののんびりしている。	①	②	③	④	⑤
2. 苦手なことにも、ねばり強く取り組んでいる。	①	②	③	④	⑤
3. 友達の見解をよく聞き、友達の見解を受け入れたり、一緒に考えたりしている。	①	②	③	④	⑤
4. 他校の人は、自分たちのことをよく考えてくれている。	①	②	③	④	⑤
5. 学校のために自分にできることがあると思う。	①	②	③	④	⑤
6. 今の自分は新しい課題や方法にもチャレンジできると思う。	①	②	③	④	⑤
7. 学年のちがう人とも協力したり、かわりあったりすることは大切だと思う。	①	②	③	④	⑤
8. 世界の問題は、ぼく・わたしの生活にも関係があると思う。	①	②	③	④	⑤

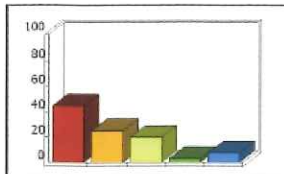
総合的な学習の時間の活動が本格的に始まる前と大門フェスティバルの後でアンケートを行い、総合的な学習の時間を中心としたESDの実践による児童の変容を見とることができた。

大きく変容が見られたのは、SDGsについての項目である。低学年は「SDGsのことをもっと知りたい」という質問、高学年は「SDGsの達成のために協力する責任がある」という質問に対して

どちらも「強くそう思う」が5%以上も増えている。これはSDGsについて自らできることを考えたり、実践してきたりした成果だと考える

【低学年11月初めアンケート結果】

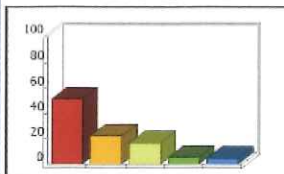
SDGsのことをもっと知りたい



回答	%
強く思う	44.61
そう思う	24.91
どちらとも...	20.07
あまり思わない	2.97
そう思わない	7.43

【低学年12月フェスティバル後のアンケート結果】

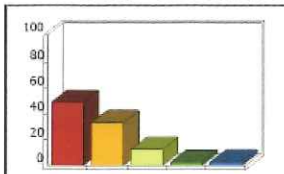
SDGsのことをもっと知りたい



回答	%
強く思う	51.31
そう思う	22.10
どちらとも...	16.85
あまり思わない	5.24
そう思わない	4.49

【高学年11月初めアンケート結果】

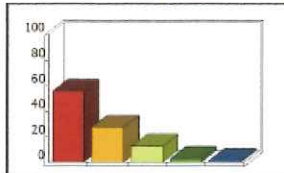
SDGsの達成のために協力する責任がある



回答	%
強く思う	49.13
そう思う	33.22
どちらとも...	12.46
あまり思わない	2.42
そう思わない	2.77

【高学年12月フェスティバル後のアンケート結果】

SDGsの達成のために協力する責任がある



回答	%
強く思う	55.75
そう思う	27.53
どちらとも...	12.54
あまり思わない	2.79
そう思わない	1.39

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

<児童アンケート結果から見えてきた価値>

- ・地域や世界の問題に関心をもつこと
- ・あきらめずに粘り強く取り組む力
- ・協働して問題解決しようとする力
- ・一つの問題に対して複数の意見や考え方があること
- ・自分事としてとらえる力

継続したESDの教育活動によって、子どもたちの資質・能力に変容が表れてきていると感じている。これからも身近な問題を見つめたり、関心をもったりして、友達や地域の方とつながり、「今、自分たちにできること」を考え、未来へつなげていく取組を大切にしたい。

14 横浜市立中和田中学校

学校教育目標 『自ら学び、自他を大切にして、社会に貢献する生徒を育てます』

1 学校教育目標と ESDを通して育成したい資質・能力とのつながり

具体的な課題の発見・探求・解決の過程で生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるようにする



2 SDGs達成の担い手育成 (ESD) の視点で 取り組んだこと

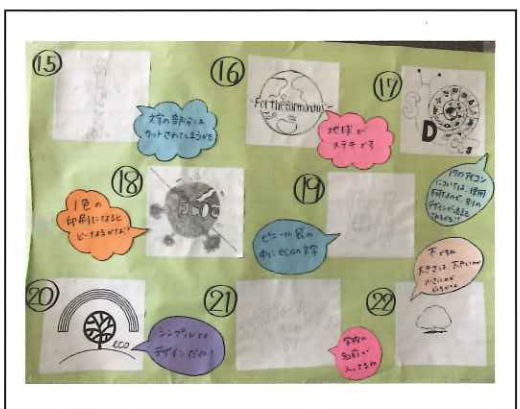
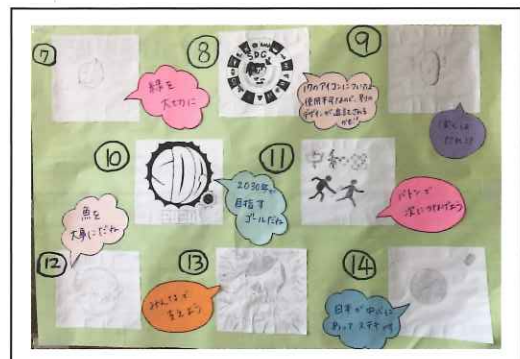
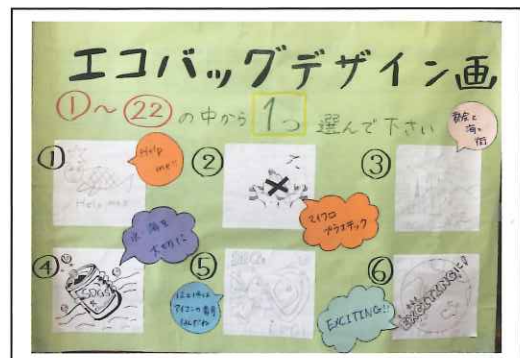
○『つくる責任・つかう責任』(SDGs目標12)『海の豊かさを守ろう』(SDGs目標14)をテーマにゴミのゆくえ・買い物袋のゆくえの問題提起を行った。



○校内に自動販売機が設置されたことを含めて、生徒たちが主体的に取り組める機会としてエコバッグづくりをした。



エコバッグづくりは保健委員会から全校生徒へ働きかけ、デザインを全校生徒に作成してもらい全校投票により1つに絞り、みんなが注目する活動にすることで、より今のライフスタイルを見つめなおす活動とすることができた。



○エコバッグづくりをする中で、学校教育目標の社会に貢献する視点を踏まえ社会全体への持続可能な未来を意識した学びの一助にすることができた。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

○エコバッグづくりの段階として「ボタンタッチ SDGs はじめてます 河川のSDGs (海のSDGs 続編)」を視聴した。



「海から完全にプラスチックごみをなくすためには元から断たなくてはダメだ。」という青年の映像を見て、同年代の子どもたちが、今の自分と比べて、今の自分には何ができるのだろうかということを考えるきっかけとなった。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

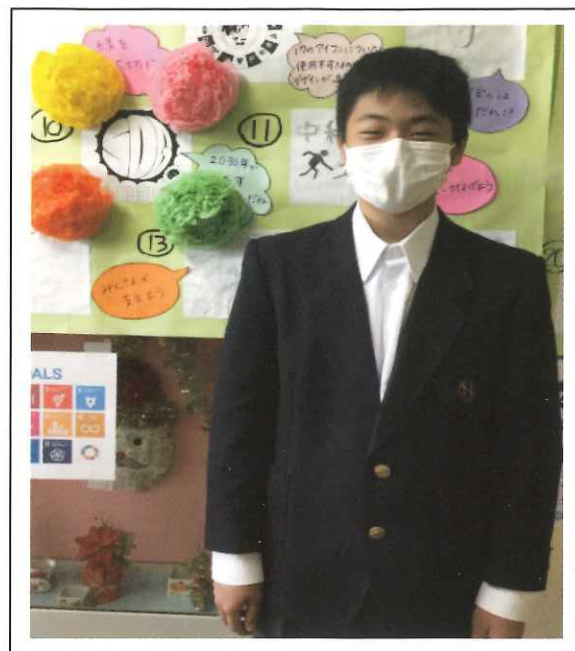
エコバッグ自体は、前から世の中にあるものだが、今回作製したエコバッグの素材がペットボトルからできていることは新しいことであり、時代の流れで今まで革や布で作られるものが鞆という概念が変わり、リサイクルの視点に意識が確実に転換した。



【投票箱と廊下に展示された各クラス作品】

時代が日々変わり流れていく中で、生徒自身が新しいものを見つけてみようという意識が生まれていることが見える。

エコバッグづくりは、生徒にとって身近なことから目を向けられるので、取り組みやすい内容だった。



【エコバッグデザインに選ばれた生徒】

SDGsは17の目標から成り立っていて、デザインを全校生徒が描くことで、その1つひとつのアイコンの内容に興味を持つことができた。また2030年までに達成という目標も理解し、デザインの中に盛り込むことができた。

SDGsとは何か、何を目指しているのか、持続可能な開発とはどういう意味なのか。まだ、生徒たちに伝えなければならないことはたくさんあるが、今回エコバッグづくりをしたことで、家に帰りおうちの人に話をする中で、自分ひとりでは思いつかなかった「できること」が見つかるかもしれない。また、SDGsについて話題が広がることで、社会や環境問題、身近なことへの興味や世界の人々に目を向けていけたら、次につながる一歩となると感じた。

17の目標すべてを取り組もうとしても、それは難しい。今回の目標12と14に関連した何か1つでもつなげて取組をし、持続可能な発展につながるようにすればいい。

「できること」「できそうなこと」から、行動をすることを、今後もやっていきたい。

15 横浜市立西本郷中学校

学校教育目標

自ら挨拶、自ら判断、自ら行動、人とのつながりを大切にする思いやりある西本中生

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

予測困難な時代に向け、時代の変化を先取りし、持続可能な社会の創り手となることを意識し、自らできることを考え実践する力

「コミュニケーション能力」

「つながる力」

「自ら判断して行動する力」

「多様性の尊重」

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点 で

①難民への理解を深め、自分たちにもできることを考え、実行にうつす。

ステップ1 国連UNHCR出張授業

国連UNHCR協会、天沼耕平氏による出張授業を実施した。本来であれば、全校生徒を体育館に集めて講演をしてもらう予定をークラスで講義した映像を情報配信システムを使って全クラスに同時配信するという方式を採用した。本校初の試みだったこともあり、多少不具合が生じたが、担任がクラスで講義するだけでは喚起することが難しい、難民の現在を知っている現場の人の声を直接聞くことにより生徒の興味関心を高めることになった。

UNHCRの難民支援と
私たちにできること

横浜市の難民支援人
国連UNHCR協会



ステップ2 ユニクロ「届けよう、服のチカラ」 プロジェクト」への参加

コロナ禍で出張授業がためらわれたこともあり、ユニクロから送付してもらったDVDを各学年で一斉に視聴し、難民支援のために子ども服の古着を集める活動に参加することを全校生徒に周知した。

ステップ3 生徒会による古着回収活動開始

生徒会本部役員が集まり、どのようにプロジェクトをすすめるかを話し合った。古着回収期間は1ヵ月、朝の登校時間に回収ボックスを設置、生徒会本部役員が交代で声かけを行うことなどを決めた。事前に昼の放送でプロジェクトの開始をアナウンスすることとなった。

本校で、このプロジェクトに参加するのは始めてなので、古着がどのくらい集まるのかまったく見当がつかず、ユニクロから送られてきた古着回収用の段ボール10箱はとても多いように感じていたが、結果的には段ボール9箱、約600着程度の古着が集まった。例年だと、地域にも呼びかけ、大々的に古着回収をすることもできるそうだが、もし、そのような機会があれば地域の祭りの時、地域の店舗や会社を通じて古着回収プロジェクトへの参加をよびかけるなど、生徒主体で地域とのつながりをもつことも可能となる。今後とも続けていきたい活動である。また、このプロジェクトを通じて、生徒は遠い世界のできごとである難民問題を身近にとらえなおすことができた。



②横浜市の温暖化対策について理解を深め、学校で取り組めることを考え提案する。

ステップ1 横浜市温暖化対策統括本部の出張授業

グーグルの提供する温室効果ガス排出量可視化ツールEIE (Environmental Insights Explorer) を活用した授業を3年生全4クラスで実施した。横浜市温暖化対策統括本部課長の宮島弘樹さんを講師として、社会科の授業を2コマ利用し、1時間目は地球温暖化の概要やメカニズムを知り、2日目は横浜市として削減すべきところや、削減できる分野はどこにあるのかを考えるというテーマで講義してもらった。

一クラス10班に分かれ、1班に1台タブレット端末を配布し、EIEツールを活用し、横浜市ではどのくらい温暖化



効果ガスが排出されているのか、自動車などからの排出量はどうなっているのか、もし、建物の屋上に太陽光パネルを設置したら、どのくらい排出量が減るのかなどを確認した。授業の中では、排出量を減らすにはどうしたらよいのか、まず班で討議し発表し、その後は個人で質問、発表した。横浜市は人口が多いので、家庭からCO₂が排出される割合が他都市に比べて多いことを認識した。

ステップ2 学校で取り組める温暖化対策を考える

社会科の時間を使い、さらに学校で取り組める内容があるかを班で討議した。温暖化対策アクション、略して温対アクションを個人で考え、それを持ち寄り、班で討議して決定するという流れですすめた。出張授業の内容をふまえ、学校内の常

時点灯しているトイレなどの電気をセンサー式にすることや緑を育てるなどのアイデアがでた。

ステップ3 理科の授業で環境問題について調べる

理科の時間を使って、環境問題についてさらに詳しく調べることに。調べるテーマは8つ。

- ・水質汚濁
- ・エネルギー問題
- ・自動車の未来
- ・プラスチック問題
- ・オゾン層破壊
- ・森林破壊
- ・地球温暖化
- ・大気汚染



調べた内容を発表し、それに対して質問を受けさらに調べることで内容を深めるための中間発表を行い、これらの問題を解決するためにはどうしたらよいのか、解決するとSDGsのどのゴールに近づくのかを最終的には発表させる予定である。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

生徒による学校評価アンケートを実施した。「西本郷中学校はSDGsの取組に積極的である。」という内容の質問に対し、全校で8割近い生徒が、「そう思う」「大体思う」という回答を得た。SDGsの周知は進んだのではないかと考察できるが、今後はさらにESDで育成をめざす「構成概念」を各教科に位置づけ、視覚化する手法を生み出す必要がある。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

難民支援など地球規模の課題を、自分ごとにとらえ主体的に行動することで、問題解決に近づくことに気づけた。

Think globally act locally.

16 横浜市立西柴中学校

学校教育目標 共に学び、たくましく、豊かな心をもった生徒を育てます

(公) 地域や社会のため、自分の役割や働くことの意義を理解し、行動する力を育てます。

(開) 多様性を尊重し、コミュニケーションを通して、ともに新たな価値を見出す力を育てます。

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

- 世界に目を向けることで、国際理解・国際協力の意識を持ち、多様性を尊重できる豊かな心を育む。
- 自ら課題を見出し、学び続ける姿勢を育成する。
- まちに愛着を持ち、コミュニケーション力を高める。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

○ 学校図書館の整備

生徒自らが興味関心を喚起できるよう、学習環境の整備の一環として、図書の充実を図り、学校図書館に「SDGs コーナー」を設けた。

また、図書室前と保健室、事務室前に掲示を行い、生徒の意識向上を図った。



○ 1年生理科の授業の取組

1年生の理科の授業において、ESD（持続可能な開発のための教育）とは何か、2030年に実現するために、今何をすべきかを考える授業を行った。（全7回）

- ① 授業振り返りアンケートにて、“SDGs”を知っているかの事前アンケートをとった。
- ① SDGsの17の目標についてレクチャーを行い、それぞれが興味を持った理科に関連するSDGsに関する調べもの学習のテーマを決定した。

調べもの学習の内容として選んだテーマは、

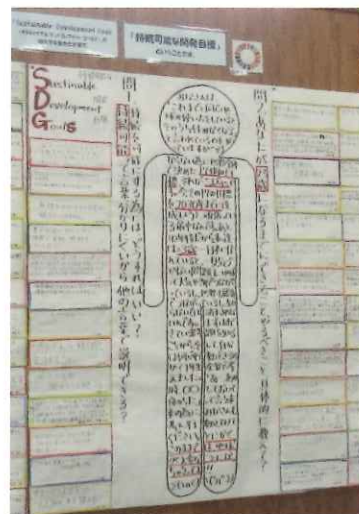
1. 南北格差問題や飢餓問題、食品ロスなど、食料分配にかかわること
2. 海洋プラスチック問題など、プラスチックにかかわること
3. 地球温暖化についてや森林の保護など、地球環境問題
4. 飲み水やトイレについてなど、水問題
5. 化石燃料の枯渇や再生可能エネルギーについてなど、エネルギー問題を選ぶ生徒が多かった。

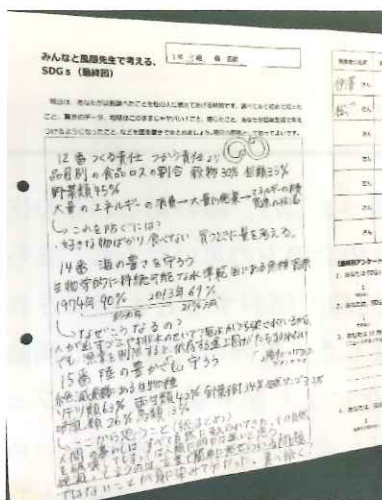
ごみ問題や女性の権利について調べた生徒もいた。

②～⑤学校図書館にて、調べもの学習。

⑥調べもののまとめと西柴祭（文化祭）の展示物作成。

1. 持続可能にするために、あなたがすることは。
2. あなたが23歳（2030年）になるまでにできること、やるべきこと。





⑦自分が調べたことを、班の人にも教えてあげようの会(班内発表会)開催。発表会后、最終アンケートをとった。

1. 大部分の生徒が意識の高まりを実感し、まわり(保護者など)に伝えたいと考えた。
2. 節電や節水を心掛けるようになった。
3. 食べ残しをしないようになった。
4. 買い物の時マイバッグを持参するようになった。
5. ゴミの分別が大事であると自覚し、実際に実践するようになった。
6. 賞味期限の長いものを買うのではなく、すぐに使うものなら賞味期限が短いものを意識して買うようになった。また、エコマークの製品を意識して買うようになった。
7. 植物を植えよう、リサイクルをしよう、募金をしよう、物は使い切ろう等々の決意もあった。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

▽SDGsについて学習する前のアンケート結果

【質問】SDGsについて知っていますか？

- 【結果】知っている；12%
聞いたことがある；61%
知らない；11%
無回答；16%

▽SDGsの学習を行った後のアンケート結果

【質問1】SDGsについて知っていますか？

【結果1】よく知っている；88%

【質問2】SDGsについて人に説明できますか？

【結果2】自信をもってできる；54%

【質問3】SDGsについて勉強してよかったですか？

【結果3】とてもよかったです；95%

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

▽SDGsの学習に取り組んだことでの生徒が実感する意識変化

▽学校司書より

昨年度より、SDGsに関連する蔵書を充実させ、掲示物や学校図書館だよりでも啓蒙するよう心掛けました。

本年度は、調べもの学習を行う上で、クラスの生徒全員が一斉に取り組むには十分ではないので、金沢図書館より、蔵書を借りてきました。

調べものをしたことで、今後も興味をもって別の角度からもSDGsについて調べてほしいです。

▽1学年理科担当より

SDGsについて研究している大学生と話す機会があったり、中村哲さんの本を読んだりして感化され、「未来を担う中学生に、現状を知ってほしい」

「せっかくなら文化祭に展示ができれば」「やるなら年度末ではないときに」と思い、自分もまだまだ勉強不足でしたが、生徒たちの力を信じてみました。事後のアンケートを見ると明らかに意識は変わり、家族と話した生徒もいたということで効果を感じています。更に、学習した直後にテレビで1週間特集が組まれていたので、それを意識して見た生徒も多く、良かったと思います。多くの企業がSDGsに力を入れている中で、学校が遅れをとることはできませんし、毎年継続して行っていくことが大切だと感じています。

17 横浜市立神奈川小学校

学校教育目標

「かながわ」 よくかんがえ なかよく がんぼる わたしたちかなっ子

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

- 「よくかんがえ」では、自己決定力・自己判断力の育成を目指しています。

ESDにおいて、私たちとその子孫が、この地球で生きていくことを困難にするような問題について、考えたり立ち向かったりする中で育まれる思考力や判断力が学校教育目標に直結します

- 「なかよく」では、かかわり合う力・コミュニケーション力の育成を目指しています。

ESDでは、他人、社会、自然環境との関係性など、様々な他者との関係性を認識し、関わりやつながりを尊重していく考え方が重要となることから、他者とのつながりやコミュニケーション力をダイレクトに育成できます。また、収集した情報や、行った実践について学校内外に向けて発信することも、これらの力の育成につながります。

2 SDG s 達成の担い手育成（ESD）の 視点で取り組んだこと

- 体験学習での取組に、SDG s を位置づけました。

三浦体験学習では、「14. 海の豊かさを守ろう」という視点で、自然の干潟の様子を観察しました。学校に戻ってからは、学校近隣の人工干潟の様子を見学し、生態系の違いや生き物の保全について学びました。

- 総合的な学習の時間での取組に SDG s を目標に位置づけました。

4年「浦島太郎について調べよう」では、学校周辺の地域に古くから根付いている「浦島太

郎伝説」について調べました。縁のあるお寺の住職さんのお話や、町内会の方の思いにふれ、まちのシンボルとして浦島太郎がずっと大切にされてきたことを知りました。町内の公園にある浦島太郎の壁画を老朽化により塗り替えるプロジェクトに加わり、子ども達が浦島太郎の壁画を一新することになり、プロのアーティストを講師として招きながら制作を進めています。

この学習の中では、様々な方と関わりながら地域で大切にされてきたものを守り、老朽化した場所を新しくするという活動に「11. 住み続けられるまちづくりを」という視点で、取り組んでいます。子ども自身が地域に愛着をもち、制作した壁画が地域の人からも愛されるよう、試行錯誤しながら学習を進めています。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

- 上記の活動に加え、SDG s に関連すると思われる実践について、SDG s の視点で活動を振り返る予定です。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

- 自分たちの生活は、地域や世界とつながりがあることに気づくことができました。

住んでいる地域のすぐ近くにある海は、他の地域や世界ともつながっていることや、環境汚染等により生態系が失われている地域もあることを知り、世界で起きていることも、自分たちの生活と無関係ではないことを実感することができました。

- 地域の人々の思いにふれ、まちへの愛着が生まれました。

18 横浜市立白幡小学校

学校教育目標 **たくましく生き抜いていく子ども**

心身ともに健康で、豊かな心情をもち、自分の言葉で語る実践力のあるたくましい子どもを育成します。

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

学校教育目標「たくましく生き抜いていく子ども」を達成するために、5つの目指す子どもの姿（目標を立てられる子、受け入れる子、協働する子、判断・実行できる子・やりぬく子）を設定して取り組んでいる。この5つの姿全てが、ESDを通して育成したい資質・能力である。

教職員が「この問題を解決したい！」と子どもが課題を発見して取り組むための手立てを具体的にイメージすることや、子どもが課題を解決する方法を主体的に選択、決定して学ぶ姿が見られないことに課題をもっていたため、この5つの姿を設定した。また、これからの社会をたくましく生き抜いていくために、子どもたちが主体的に学び方を自己選択、自己決定しながら、他者と協働的に解決してほしいと考えている。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

ESDの視点でカリキュラム改善を行っているが、次世代を見据えたカリキュラム開発も視野に入れて取り組んでいる。

○4年生 総合的な学習の時間

SDGsについて調べ、自分たちにできることを考えて活動している。横浜市国際交流協会の出前授業で、さらに理解を深めることができた。



○6年生 理科 電気を無駄なく使う仕組み

自動で電気が点灯消灯する事実から学習を展開し、電気を無駄なく使う仕組みをプログラミングで考えた。



○2年生4年生 ビーバーチャレンジに挑戦

ビーバーチャレンジとは、情報学と論理的計算的思考のための国際的な取組で、問題解決スキルと情報学の理解を促進している。今回はカードを通して取組を行った。

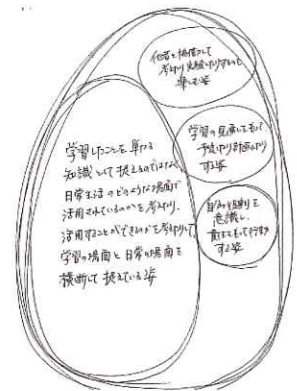


3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

○年間指導計画（学年ごよみ）とESDとの関連を明らかにした表を作成し、図書室前に掲示した。

○校内重点研究で、自分が授業で育てたい子どもの姿を「卵」にして表し、研究会や協議会でその卵をもとに議論を深めた。

○学校評価にも取り入れ、保護者から学校の取組を評価する機会を設けた。



4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

○ESDという共通のフィルターがあることで、目指す子どもの姿がより具体的になった。
○保護者にSDGsを周知するきっかけになった。

19 横浜市立中尾小学校

学校教育目標 なかよく かがやいて おたがいに高めあう子

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

ななかよく ふれあいを大事にする子

かがやいて自分らしさや自分の可能性を高める子

お互いに高めあう子 友達のよさを認め合い、学びあえる子

- コミュニケーションを行う力…自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。
- 進んで参加する態度…集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解し、ものごとに主体的に参加しようとする態度。
- 多面的・総合的に考える力…ひと・もの・ことを多面的・総合的に考える力。
- 問いを見い出して学び続ける力…ひと・もの・ことから問題意識をもち、よりよい社会を創ろうとする力。

2 SDGs達成の担い手育成（ESD）の視点で 取り組んだこと

今年度は、まず最初に職員も子どもたちも「知ること」から始めた。SDGsという言葉や内容を知ることや、「持続可能な社会を創っていく」ことの大切さを理解するために、職員研修を行った。また、子どもたちに対して、授業の中でSDGsにふれる機会を作るとともに、これまで行ってきた授業を職員がESDの観点で見直すことで、子どもたちに意識付けするようにした。

特に、これまで行ってきた各教科等の授業の中で、「命のつながり」や「持続可能な社会に向けてできること」などをより意識することで、子どもたちの学び方に大きな変化があったと感じている。

【事例1】 5年（社会）「持続可能な水産業とは」

東京湾のアナゴ漁師Sさんとの出会いから、水産資源を守り、海の環境を守る水産業のあり方を考える授業となった。アマモを植えたり小さいアナゴを

逃がしたりしながらアナゴ漁を続けるSさんの姿から、「自分（人間）のことだけでなく、アナゴのことを考えて漁を続けている。」と考え、熱心に授業で話し合う子どもたちの姿があった。



【事例2】 4年（総合的な学習の時間）

「マイクロプラスチックを減らすには」

ゲストティーチャーの話や写真をきっかけに、自分たちが普段から多く使用しているプラスチックに目を向け、そのプラスチックが大量に海に流れ出ていることで生き物に影響があることを知った子どもたち。学校の周りのごみを拾ったり、マイバッグやマイボトルを使うなどプラスチックをすぐに捨ててしまわない方法を考えて実践したりした。また、実際に海岸に行き、マイクロプラスチックを拾う活動をし、さらに自分たちができることを進めていきたいと考えていた。

3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

今年度は、ESDに本格的に取り組んだ初年度となる。そのため、年度の初めと終わりで子どもたちの意識調査を行い、比較がしやすいと考える。同じ項目で子どもたちの意識の変化を比べ、グラフで表す。

また、その結果をもとに、来年度からの実践に生かしていく。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

ESDの視点に立って普段の授業を見直すことで、より子どもたちの視点に立ち、実態をふまえた単元づくり・授業づくりを行うことの大切さが見えてきた。また、本質的なものは何かを問い直し、学校全体で共有していこうという確認ができた。

20 横浜市立相沢小学校

学校教育目標

学びあい 認めあい 支えあい 夢をはぐくむ あいざわっ子

【知】自ら考え 学び続ける子を育てます 【徳】自分も 周りの人も 大切にすることを育てます 【体】進んで 健康的な生活をする子を育てます
 【公】自分の役割を考えて 行動する子を育てます 【開】目標に向けて ねばり強く取り組む子を育てます

1 学校教育目標とESDを通して育成したい 資質・能力とのつながり

『人、もの、こととの「つながり」から、自己の考えを伸長し、未来へはばたくことができる』



【これまでの自分の見方・考え方をもとに】

- つながりに関心をもち、大切にする (関連)
- 役割を考え、進んで参加する (参加)
- 友だちや関係機関と協力する (協力)
- 未来に向かって計画をする (未来)

伸長

2 SDGs達成の担い手育成 (ESD) の視点で 取り組んだこと

【6年 総合的な学習の時間 (A I A I)】

「あいざわのまちSDGs宣言」

SDGsを通して、自分たちのまちの特徴を見つめ直し、自分たちにできることは何かを考え、あいざわのまちの方と共によりよいまちを創り上げるために、発信 (宣言) を行った。6年生を3つのグループに分けて活動を行った。

【環境】

・エコバッグづくり

エコバッグを作り、広めたいという思いに沿い、PTAと連携をしデザイン、色を考え、運動会の参加賞としてエコバッグを配布した。



・間伐材を使ったクラフト体験

秦野で林業を営む方と関わり、林業の魅力や間伐材への関心を深め、いただいた間伐材をもとにプラスチック代用品を制作した。



【地域】

・まちにSDGsを広める活動

学習を通して、まち、保護者にできることを考えた。運動会時に保護者へ「ゴミを持ち帰ろう」と呼びかける放送やチラシ作り、学校HPを活用してSDGsについて知ってもらおう取組をした。



・SDGsサポーター認定活動

民生委員や子どもが利用する店など子どもがお世話になっている人に対して共によりよいまちを創り上げるための協力を依頼し、SDGsサポートとして認定をした。



・外国にルーツのある保護者へアンケート

在籍児童のうち、約2割が外国にルーツをもっているという特性を生かし、「日本に住んでいて感じる日本のよさや、過ごす際に困っていること」などのアンケートを行った。

・日本救援衣料センターへの服の寄付、ユニセフ募金

自分たちができることは何かと考え、6年生全員に服の寄付を依頼し、集めたり、ユニセフ募金を行ったりした。



3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

これまでの活動の中での学びをもとにESDによる変容を見取るため、宣言を行った学習発表後に以下のアンケートを行った。6つの構成概念および、7つの能力・態度である。

いつまでもみんなが幸せに暮らせる社会につながる問題の解決にむけての大切な考え		とても思える	少し思える	あまり思えない	まったく思えない
1	いろいろなこと (多様性)	21	24	3	0
2	関わり合っていること (相互性)	26	21	1	0
3	限りがあるということ (有限性)	38	8	2	0
4	一人ひとり大切にすること (公平性)	31	15	2	0
5	力を合わせるということ (連携性)	30	17	1	0
6	役割や責任をもつということ (責任性)	34	14	0	0
今の自分ができること		よくできる	だいたいできる	あまりできない	まったくできない
1	批判的に考えること	12	29	6	1
2	未来を想像して予測して計画を立てること	18	24	6	0
3	多面的、総合的に考えること	21	23	4	0
4	コミュニケーションを行うこと	16	16	14	2
5	他者と協力すること	32	15	1	0
6	つながりを尊重すること	17	21	7	2
7	進んで参加すること	20	24	4	0
8	自分自身の責任をもち主体的に活動に参加すること	16	25	7	0
9	自分の役割を理解し、進んで他者のために行動できる	27	19	2	0

アンケート結果より有限性、責任性に関する考えの推移が高かった。限りある資源に感謝し、大切に使うことや自分たちで協力して課題解決をすることをこれまでの活動で実感することができたといえる。

4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

人・もの・こととの「つながり」から、主体的に参加する態度を育むことができた。これまでの自分の見方・考え方がESDを通して見つめ直すことで身の回りのことにつながっているだけでなく、未来に向かっていくこと、それを担う一員であることを子ども自身が感じるようになったと考える。